

今日の 話題

上海交通カード

荷物を整理していたら上海交通カードが出てきた。上海万博の絵面で懐かしい。しかし残高は？まだ使える？と気になり、最近の交通決済状況を調べてみた。

上海交通カードとはプリペイド式の非接触カードで、各都市にも同様のものがある。但し、最近の利用者はスマホに慣れない高齢者が中心だ。確かに買物や他社交通機関にも使える日本のSUICA等と異なり、交通カードはその地の交通機関だけでしか使えず、チャージも窓口現金のみと不便だ。結果、今ではスマホの各種アプリを使う人が多い。

しかしアプリのほうもバスは微信支付(WECHAT)や支付宝(アリペイ)が使えるのに地下鉄は専用の交通アプリのみ、タクシーは滴滴などの配車アプリも絡んでくるなど少々複雑である。カード端末が不要でQRコードさえあれば即決済できる容易さから、中国で

はアプリ決済大国になった。しかし、アプリが乱立し、複数使いこなさなければならぬには閉口する。財布のカードを少なくしたい派の私としては、できればアプリも一つで全てを賄いたい。

アプリと言えば、スマホにシェアバイクアプリ(MOBIKE)を入れていたのを思い出した。が、起動しない。シェアバイク業界は過当競争で淘汰が進み、MOBIKEは美团に買収されアプリサービスも終了していたのだ。チャージ残高はパーである。

これらアプリを使うには、微信支付などのペイ決済と連携するのが基本となる。そしてペイ決済はさらに中国の銀行口座との連携が必要のため、口座のない外国人は交通カードがツールとなる。一方、元駐在員などで銀行や微信支付の口座がある方はアプリ利用が可能だ。但し、長期間決済をしていないと口座が一時停止されることがある。この場合現地窓口でパスポートを提示し再開手続が必要となる。

中国訪問される方にはこれらカードやアプリを使いこなし、快適な中国国内移動をしていただきたいと思う。来年には中国の入国管理が緩和されることを期待して。

(金本勲相 BP アジアコンサルティング代表・公認会計士)